

公益社団法人
岡山青年会議所広報誌

暖流

公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

2025年
総集編

DANRYU since 1975 Anniversary 50th



一年間、暖流をご愛読いただき
誠にありがとうございました。
来期も何卒よろしくお願い申し上げます。



皆さまからのご意見・ご感想をもとに、
よりよい「暖流」をお届けしてまいります。
左記アンケートより、ぜひお声をお寄せください。



homepage address

<https://www.okjc.org>



facebook



Instagram



岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業や運動のご報告など随時更新しております。
お気軽にホームページをご覧ください。

岡山青年会議所

検索

暖流
公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

次号は令和8年1月発行予定です。

発行日 令和7年12月
発行 公益社団法人岡山青年会議所
〒700-0985 岡山市北区厚生町3丁目1番15 岡山商工会議所ビル6階
TEL 086-223-0938 FAX 086-225-0500 email info@jci-okayama.com
発行責任者 公益社団法人岡山青年会議所
会員拡大広報委員会
委員長：木村勝也
大田武勇・山崎洋介・大田原基敬・黒田勇人・増田亮治・山崎皓平・青山あゆみ

創立七十五周年公開例会

－ 千原ジュニア講演 － 夢を描く力が未来を変える



10月7日（火）、岡山芸術創造劇場ハレノワ大劇場にて、創立75周年記念公開例会を開催いたしました。岡山青年会議所では、年に一度、市民の皆さまとともに学ぶ「市民公開例会」を実施しております。本年度は講師としてタレントの千原ジュニア氏をお招きし、「夢を描く力が未来を変える」をテーマにご講演いただきました。講演では、苦境に向き合う際の心の持ち方や人との関わりの中で育まれた価値観、自分自身を認めながら前へ進むことの大切さが、ユーモアを交えながら語られました。笑いが起こる場面も多く、会場の皆様とともに楽しい時間をすごすことができました。終盤の質疑応答では、市民の皆さまからの質問に対し、一つひとつ丁寧かつ率直に答える姿が印象的で、会場との一体感がさらに高まりました。多くの皆さまにご参加いただき、おかげさまで大盛況のうちに終えることができました。

ご来場いただいた皆さま、並びに関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。岡山青年会議所は、これからも地域の皆さまと共に、学びと成長の場を創り続けてまいります。



暖流

公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

暖流発行にあたり

公益社団法人岡山青年会議所の広報誌「暖流」をご覧いただき、誠にありがとうございます。2025年度も残すところわずかとなりました。年間を通じて「暖流」をご覧いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。

本年度、私たちは創立75周年という節目にあたり、スローガン「VISION」を掲げ、岡山青年会議所の未来像と、次代に引き継ぐべき価値を真摯に見つめながら活動してまいりました。「次の時代に誇れる事業とは何か」「未来の岡山に何を残すのか」という問いに向き合う中で、地域の課題や、まだ気づかれていない課題、見えにくい立場の方々に目を向けることの重要性を再認識し、さまざまな事業を構築し学びを重ねた一年であったと感じております。

また、メンバー一人ひとりが「VISION」を胸に、自らの役割を果たしながら積極的に参画し、互いに刺激を受け合い成長を重ねたことも、本年度の大きな成果です。75周年を迎えたこの年に、組織としての方向性と志を改めて共有し、未来を切り拓く力強い基盤を築くことができたと確信しております。

本年度の活動にあたり、ご支援・ご協力を賜りました関係団体の皆さま、ご協賛をいただきました企業の皆さまには、改めて厚く御礼申し上げます。最後になりますが、2025年度の岡山青年会議所の活動に関わってくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。今後とも岡山青年会議所へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人岡山青年会議所
2025年度 第75代理事長

妹尾愛希



防災Camp訓練 OKAYAMA 2025

子供たちと体験する「防災キャンプ」～災害を学び、地域とつながる～

10月25日(土)26日に旧幸島小学校を会場に、子供たちを対象とした「防災Camp訓練 OKAYAMA 2025」を開催しました。岡山市内では大規模な避難生活の経験がほとんどない中、参加した小学生たちは避難所での生活や防災活動を体験し、災害への備えの大切さを学びました。子供たちが班ごとに分かれて自己紹介やゲームを通じて仲良くなるアイスブレイクからスタート。新聞紙で自作のお皿を作ったり、じゃんけんゲームで盛り上がったりと、笑顔があふれる時間でした。その後は防災テントの設営訓練。普段はハンマーを触る機会の少ない子供たちも、FOS少年団やJCメンバーのサポートを受けながら、安全に防災テントの開設と閉設ができました。「こんなに大きなテント、自分で立てられるんだ」と驚きの声も。夕食は、火起こしから取り組む炊き出し体験としてカレー作りに挑戦。班ごとに協力しながら火を起し、完成したカレーを新聞紙で作ったお皿に盛り付けて食べることで、避難生活を想定した食事の大変さと達成感を味わいました。さらに、避難所運営ゲーム「HUG」では、体育館を避難所に見立て、必要な物資や課題を班ごとに考えました。2日目には保護者の前で発

表し、「実際に災害が起きたときにどう動くか」を子供たち自身が考える機会となりました。また、自衛隊や消防署、警察署の皆様の協力により、非常食の試食や救助訓練の見学、防災器具の展示なども実施。子供たちは実際に災害時の現場を体験し、学びを深めることができました。夜間は体育館にて持参した寝袋で就寝しました。広い空間に響く足音や外から聞こえる雨音など、日常とは異なる環境の中で、子供たちは落ち着かず、なかなか眠れない様子も見受けられました。しかし、この「不自由さを体験すること」こそが災害時のリアルに触れる貴重な学びとなり、子供たちにとって深い気づきにつながったように思います。今回の防災キャンプでは、参加した子供たちの防災意識が大きく向上しました。アンケートでは、約90%の子供たちが「防災について学ぶことができた」と回答しました。また、避難所に必要なものや課題についても多くの意見が集まり、子供たち自身が「避難所の生活をより良くする」視点を学ぶ機会となりました。岡山青年会議所は、これからも地域の皆さまと連携し、次世代に災害への備えの大切さを伝えていきます。



みんなでわくわく!福祉とおかやまフェスタ



点字ブロック発祥の地おかやまで、福祉の事業を

11月16日、岡山県における医療・福祉・教育の総合拠点である「社会福祉法人 旭川荘」が運営する「ひらた旭川荘」にて、地域と福祉をつなぐ交流イベントを開催いたしました。

旭川荘を会場に、多様な立場の方が交わる『地域のひらかれた場』

1957年の設立以来、重症心身障がい者支援から研究・国際交流まで幅広く取り組み、共生社会のモデルとして全国から注目されている旭川荘。その地で、利用者の皆さま・ご家族・地域住民の方々が気軽に集い、ともに楽しめる交流の機会を創出しました。当日は、福祉体験をはじめ、岡山グルメのキッチンカー、岡山の伝統文化に触れるステージなど、多様な交流コンテンツを展開しました。また、就労継続支援B型事業所「ラポールかえで」によるカフェもオープンし、カフェメニューの提供に加えて、クッキーやケーキの販売も行われました。会場内には終日にぎやかな交流の輪が広がり、来場者が自然と福祉を身近に感じられる時間となりました。



地域の魅力と福祉の課題を『可視化する時間』

事業では、旭川荘が抱える課題である「就労継続支援B型利用者の工賃向上」「販売機会の拡大」といったテーマに触れるきっかけにもなりました。

共生社会への一歩

さらに、この取り組みを未来へと繋ぐため、2025年12月17日には岡山市へ「コード化点字ブロックを寄贈いたしました。点字ブロック発祥の地・岡山から、新たな技術を通じて視覚障がい者の自立した移動を支える環境づくりを進めてまいります。岡山青年会議所は、今後も地域の皆さまと連携し、次世代へ受け継がれる共生社会の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

共生社会を体験する『リアルな学び』

本事業の中心となったのが、岡山県初導入となる「コード化点字ブロック」の体験ブースです。スマートフォンと連動し、進行方向や施設情報を音声で案内する次世代型の点字ブロックで、視覚障がい者の自立した移動を支える新技術として注目されています。屋外・体育館の両会場では、視覚障がい者支援をより身近に感じられる多様な体験プログラムを実施し、多くの方に福祉に触れ、理解を深めていただくきっかけとなりました。

〈体験ブース一覧〉

〔体育館内プログラム〕

岡山青年会議所・白杖体験

I・P・U・環太平洋大学・ボッチャ

岡山デビルバスターズ・フラインドサッカー

〔屋外プログラム〕

一般社団法人日本デイスコン協会・デイスコン

岡山青年会議所・コード化点字ブロックの体験

関西盲導犬協会・岡山県盲導犬友の会

盲導犬と学ぶ視覚障がい者について

岡山市手話サークル麦の会・手話教室

岡山大学ロータリーアクトクラブ

紙芝居で点字ブロックについて学ぶ

岡山交通(株)・点字ブロックタクシー・試乗体験

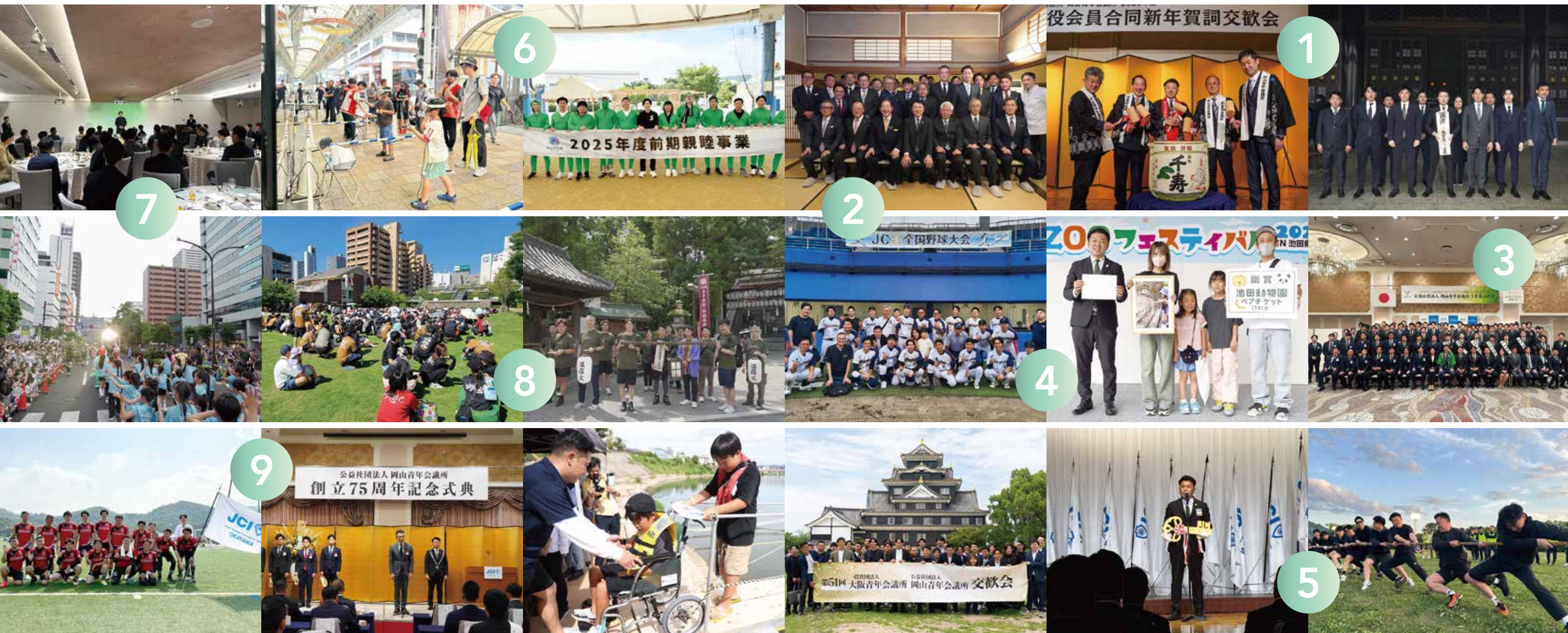
I・P・U・環太平洋大学・フライングディスク

吉備ワークホーム

いのしし革キールホルダー作製(有料)



1年間を振り返って



8

3日
第30回うらじゃ 一斉清掃
16日
第30回うらじゃ 温羅火迎え
23日～24日
第30回うらじゃ
30日
観光地クリーン運動

7

5日
中国地区コンファレンス
19日
サマーコンファレンス
LOMナイト

6

12日～15日
JCI ASPAC in ウランバートル
18日
第51回大阪交歓会
21日
前期親睦事業
22日
Digital Academy in OKAYAMA
28日
第61回岡山ブロック大会

5

7日
企画例会
10日
岡山ブロック懇親野球大会
31日
3LOM親睦テニス大会
うらじゃメダル作り

4

7日
さくらカーニバル清掃
20日
花とZOOフェスティバル2025

3

19日
岡山ブロック協議会
会長公式訪問

2

7日
歴代理事長会議

1

6日
新年祈願と挨拶回り
16日
特別会員・現役会員合同
新年賀詞交換会
25日
京都会議 出向者支援
LOMナイト

世界を舞台に走り抜けた一年

JCI 関係委員会 大塚VC 独占インタビュー

―まずは関係委員会の活動について教えてください。

JCI関係委員会では、ASPACウランバートル大会、世界会議チュニス大会への参加サポートをはじめ、ジャパンナイトや日本JC会頭招待レセプションの開催など、国際事業を幅広く担ってきました。また、京都会議、JCIアカデミー、全国大会では、海外デリゲイツを招待してインターナショナルナイトを開催し、JCIと日本JCを繋ぐ架け橋として情報交換や連携強化にも取り組みました。

―今年度はJCI創立110周年という特別な年でした。どんな一年でしたか？

スタートはアメリカ・セントルイスのJCI本部。そこから世界中を飛び回る日々で、まさに“国際を体感する一年”でした。出向だからこそ得られた視野やつながりは本当に大きく、関係委員会の仲間たちと全国を巡った経験は財産です。

―特に印象に残った出来事は？

世界大会運営・設営を担当し、日本の魅力をどう世界へ伝えるかを考え抜きました。また、チュニジアには2度現地調査に入り、準備の大変さと同時に国際事業の醍醐味を実感しました。苦労も多かったですが、それ以上に学びと達成感がありました。世界会議では花房くんがJAPAN Nightの司会として大活躍してくれて、仲間の成長を間近で見られたことも嬉しかったですね。

―出向で得られたものは何でしょうか。

やはり「出会い」と「成長」です。文化も価値観も違う人たちと協働することで視野が広がりますし、自分自身も挑戦の連続でした。機会があれば、ぜひ多くのメンバーに経験してほしいです。

―最後に、出向を終えてのメッセージをお願いします。

一年間の出向を通して、多くの仲間に支えられながら貴重な経験を積むことができました。岡山JCからの温かい後押し、そしてともに走り続けた関係委員会の仲間が存在が、最後まで頑張る原動力でした。学んだこと、得たつながり、挑戦し続けた時間のすべてが、これからのJC活動にも必ず生きてきます。支えてくださった皆さまに心から感謝しています。



大塚VCの同期である妹尾理事長も現地に駆けつけ、岡山JCメンバーを力強く激励。国境を越えて支え合う姿が印象的でした。



現地の歴史や文化にも触れ、モンゴルの風土を理解する貴重な時間となりました。



12	11	10	9
3日 さよなら例会 24日 クリスマス家族会	1～2日 第44回全国10LOM対抗 テニス大会 in名古屋 4～8日 JCI世界会議チュニス大会 16日 みんなでわくわく！ 福祉とおかやまフェスタ 21日 昭和60年丑年生まれの 追い出し旅行 30日 岡山ブロック協議会 AWARDS2025・卒業式・ 合同懇親会	7日 創立75周年記念公開例会 【千原ジュニア】 8日 JC全国野球大会 11日 第74回全国大会佐賀大会 LOMナイト 12～13日 2025マーチング・イン・オカヤマ 17日 第51回津山交歓会 25～26日 防災Camp訓練OKAYAMA2025 29日 第47回高松交歓会	7日 第54回中国地区球技大会 13日 きづく!たのしむ!できる! 観光体験ひろば2025 15日 岡山ブロック懇親サッカー大会 17日 75周年記念式典・祝賀会 23日 おかやまのまち政策 アイデア甲子園2025

